

Be-News

別府大学のアツい想いをスクープ



別府大学
別府大学短期大学部
真理はわれらを自由にする

NO.132
2026 SPRING

Beppu University, Beppu University Junior College Magazine

Be-News



クローズアップ別大生 研究室訪問 学びのトピラ 高大連携 地域連携



編集／別府大学・別府大学短期大学部 広報室 発行日／令和8年9月16日 印刷／株式会社 佐伯コミュニケーションズ
別府大学・別府大学短期大学部 〒874-8501 大分県別府市北石垣82 TEL.0977-66-6262(広報室)
禁断転載

LINE @ LINE@beppuuniv
Instagram Instagram
Facebook Facebook
真理はわれらを自由にする

Be-Museum



《ヒック》

末吉 伸行 (文学部 国際言語・文化学科 芸術表現コース 令和5年度卒業制作)

飼っていたヒックとの思い出をずっと覚えていたかったため制作。
筆とローラーで表現し、温かな雰囲気を目指した。
(油彩 F8号×9枚)



HP



Instagram



Facebook

SDGs アップデート宣言

2015年の国連サミットでSDGs(持続可能な開発目標)が採択されてから11年目を迎えました。達成年限とされた2030年まであと4年となりましたが、世界の潮流は目標を掲げるだけでなく、実社会にどうフィットさせるかを問い直すフェーズに入っています。別府大学では、学生が地域や身近な課題に目を向けながら、SDGsを自分の言葉と行動にアップデートする取り組みが進んでいます。皆さんも、次の一步を踏み出してみませんか。



別大キャンパスから 広がる持続可能な世界



NEWS & UPDATE

2026 SPRING



「新しいお土産開発コンテスト」の様子

令和6年9月、本学短期大学部食物栄養科は、株式会社ソラシディアおよび大分県国東市との包括的連携協定締結10周年を記念し、産官学連携プロジェクトとして「新しいお土産開発コンテスト」を実施しました。

このたび、同コンテストのスイーツ部門で最優秀賞を受賞した「恋色クリーブフィナンシェ」が、約1年にわたる試作・改良を



令和6年12月には松井督治国東市長を表敬訪問し、商品開発の報告

TOPICS

国東産オリーブの
魅力を生かしたこだわりの味わい

「恋色クリーブフィナンシェ」



「恋色クリーブフィナンシェ」
1箱4個入り/通常1,500円(税込み)

を経て、商品化されました。

本商品は、国東市の「国東クリーブガーデン」で栽培された、香り高く新鮮なオリーブオイルと、ほんのりとした苦味が特徴のオリーブリーフパウダーを使用したフィナンシェ生地で、甘みと酸味のバランスが絶妙なキャラメルチーズクリームを包み込み、「甘く切ない恋の味」を表現したスイーツです。

さらに、表面には塩味の効いたオリーブの

新漬けを散らし、ひと口ごとに新たな味わいが楽しめる仕上がりとなっています。

「恋色クリーブフィナンシェ」は、令和8年2月1日(日)から3月31日(火)まで、ソラシディアが運航する全路線の機内にて販売されます。ご搭乗の際には、ぜひお買い求めください。

開発メンバー … 山本 愛菜、稲場 啓剛、木内 沙耶、
工藤 楓蓮
(短期大学部食物栄養科2年生)
指導教員 … 東保美香 教授

Bē-News NO.132 CONTENTS

23	22	21	20	18	16	14	12	11	8	3
インフォメーション	2026卒業制作展	地域連携	高大連携	卒業生インタビュー 大分市消防局 中央消防署 明野出張所 梶原 嘉希さん 中津市立豊田小学校 教諭 首藤 千明さん	卒業生インタビュー こんにちは先輩!! 大分市消防局 中央消防署 明野出張所 梶原 嘉希さん 中津市立豊田小学校 教諭 首藤 千明さん	第80回線垣祭	学生広報ページ「V・Link」 ちよとと寄り道 SHONIN PARK	クローズアップ別大生 佐藤 亜衣さん (文学部 人間関係学科 4年生) 藤内 輝さん (短期大学部 食物栄養科 2年生)	研究室訪問 学びのトピラ 短期大学部 初等教育科 教授 谷川 友美	特集 SDGs アップデート宣言

10/7 - 10/26
DATE 2025

別府市誌パネル展 「別府と温泉」を開催

文学部の学芸員課程に在籍する学生が、別府市誌パネル展「別府と温泉」を別府市美術館で行いました。別府市誌を通して学んだ知見をもとに、温泉と地域社会との関わりや観光資源としての温泉の役割などを多角的に掘り下げました。7月から9月にかけて別府大学附属博物館で行われた企画を、より多くの市民にご覧いただきたいと開催に至ったものです。

パネル展では源泉数・湧出量ともに日本一を誇る温泉地・別府の温泉資源が、どのように形成

PLACE 別府市美術館

され、活用されてきたかを学生の視点で紹介。期間中に訪れた市民からは、「別府が持つ底力を再認識した」という声が聞かれました。

Action
05

10/11
DATE 2025

「おおいた地熱 アイデアコンテスト 2025」で優秀賞を受賞

大分県主催「おおいた地熱アイデアコンテスト2025」で、国際経営学部の学生チーム「別府大学熱々(アツアツ)チーム」が優秀賞を受賞し、鶴田季也さん、池田博貴さん、山縣愛果さんが表彰プレゼンテーションを行いました。「地熱グルメパークを作ろう!」をテーマに掲げ、地熱を活用した地域活性化のユニークなアイデアは、会場の注目を集めました。

また、「地熱と地域の共生。地熱の未来」を掲げたパネルディスカッションでは、国際経営学科



PLACE J:COMホルトホール大分

の阿部博光教授が登場。大学における地熱研究の取り組みや、学生への教育活動について意見を述べました。

Action
03

11/20 - 11/28
DATE 2025

命と健康を守るために— 世界エイズデー 啓発イベントを開催

毎年2月1日は、1988年に世界保健機関(WHO)が定めた「世界エイズデー」です。HIV/エイズに関する正しい知識の普及や啓発活動を通じて、感染拡大防止と患者・感染者への差別や偏見の解消を目的に制定されました。

本学は「世界エイズデー」に合わせ、大分県東部保健所と連携して、レッドリボンツリーと啓発ポスターをキャンパスに設置。ツリーには、レッドリボンとともにHIV感染拡大防止のために「自分たちができること」を書いたメッセージカードを

PLACE 本学キャンパス

飾りました。エイズ・ピア・エデュケーターの学生を中心に啓発チラシの配布も行いました。



Action
01

SDGs 活動実践中!

6/25
DATE 2025

地熱エネルギーを 有効活用した 施設を見学

国際経営学科「地域創生プロジェクト2」の受講生が、大分県農林水産研究指導センターが管理する「湯けむり発電システム&地熱利用型スマート農業ハウス」を見学しました。

別府海地獄の近くにあるこの施設では、源泉から勢よく噴き出る温泉を利用した発電システムと、地熱を利用して花きや農作物などを育てるハウスが運営されています。参加した学生たち



PLACE 湯けむり発電システム&地熱利用型スマート農業ハウス

は、地球温暖化防止、SDGs取り組みなどを背景に地熱がどのように有効活用されているかについて、噴気を間近にしながらレクチャーを受けました。地熱の重要性を肌で感じる貴重な研修となったようです。

Action
06

9/8
DATE 2025

高校生と備蓄米を 使用したブリカツ バーガーづくりに挑戦

全国的な米不足が深刻化する中、高大連携の一環として「備蓄米をおいしく食べよう」をテーマにした調理実習が、佐伯豊南高校で行われました。

当日は、佐伯豊南高校家庭クラブの生徒を対象に、同校を卒業した食物栄養科の学生が調理サポーターとして参加。海陸留美教授と甲斐明日香助手の指導のもと、佐伯の郷土料理「あつめし」をアレンジし、備蓄米を使ったライスバーガー「ブリカツバーガー」を作りました。参加した高校生



PLACE 佐伯豊南高校

からは「備蓄米を食べたのは初めて」「美味しく食べる工夫が学べた」などの声が聞かれ、学びと交流のある1日となりました。

Let's
Action
04

9/17
DATE 2025

「出張! 狩猟の魅力 まるわかりセミナー」 に参加

ジビエ料理研究会と狩猟サークルの学生が、「出張! 狩猟の魅力まるわかりセミナー」(大分県・森との共生推進室主催)に参加しました。

当日は鳥獣被害の現状や狩猟者数の推移、若年層の担い手確保の重要性、ジビエ肉に対する誤解などについて、実体験を交えたお話を伺いました。また、シミュレーターを用いた銃体験、くくり罠・箱罠の仕組みについても学び、狩猟技術や安全性について理解を深め、

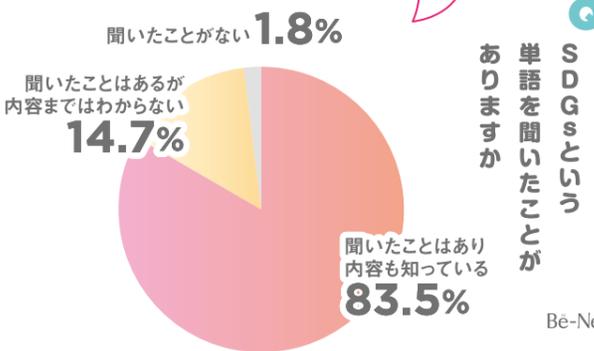
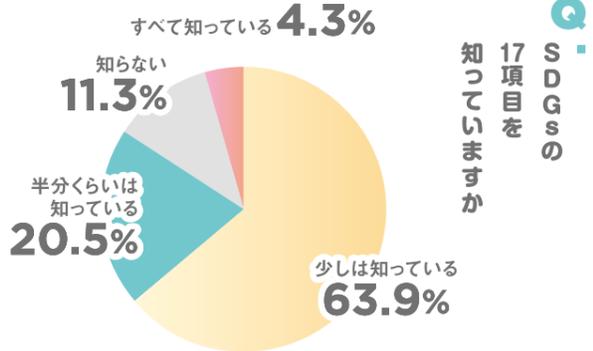
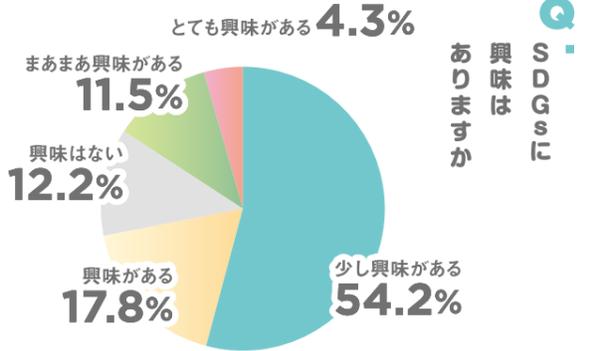
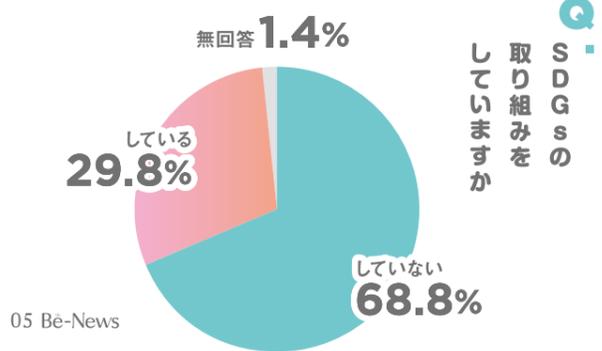


PLACE 津久見ジビエの里

イノシシ肉のバーベキュー試食会では、様々な部位のジビエ肉を味わいました。猟銃免許の取得を目指す学生にとって大きな刺激となりました。

Action
02

別大生 **443** 名の結果発表!
SDGs意識調査



6/4 - 6/13
DATE 2025

SDGsのこと、 もっと知ろう! もっと考えよう!

個々人がSDGsの趣旨や重要性への理解を深め、「じぶんごと」として捉えたいという主体的な取り組みにつなげていくことを目的に、「SDGsウィーク」として集中的な活動を行いました。



PLACE 石垣キャンパス、亀川キャンパス、大学周辺地域

啓蒙活動

SDGsの意識向上を目的に、啓蒙活動を実践しました。キャンパス内外で幟旗の掲揚やチラシの配布などを行い、学生や地域の方々にSDGsの意義や重要性を呼びかけました。



公開授業

国際経営学科の学生が「地域創生プロジェクト2」による公開授業を行いました。「地域でできるSDGs」「別府大学でできるSDGs」「脱炭素社会」をテーマに掲げ、地域や大学における取り組みについて考察を深めました。



参加型パネル作成

期間中は、全学生が自由に参加できるパネルを1号館大学事務局前に設置。「できることから未来を変える。私から始めるSDGs」をテーマに、学生自身が考える「自分ができる身近なSDGsの取り組み」を付箋に書き、地球のイラストを模したパネルに貼り付けてもらいました。



地球規模で考え、 地域で行動する



これからの

SDGs

もとに別府大学ならではの独自性とブランド力を発揮すべく、3つの柱を掲げています。



独自性 ブランド力

海外留学生の受け入れ、学生の海外留学支援など国際交流の充実
温泉・観光都市に存在し、地域特性を生かした取り組み
経済、歴史、言語、食、福祉、医療などの幅広い教育環境

Think Globally,

Act Locally

「SDGsから考える「地熱発電」」
「Beyond SDGsに向けたステージへ」
2015年に国連サミットで採択されたSDGsは、2030年をゴールに達成する国際目標を掲げています。しかし、その後の社会情勢の変化や、研究開発の遅れもあり、2030年までに実現が困難なテーマも出てきているのが現実です。

「Think Globally, Act Locally」を軸に、発祥の地「活用事業」を開催し、地域活性化にどう活かせるかについて議論しました。この日の模様は大阪・関西万博の会場で開催された「地方創生SDGsフェス」のブースでも紹介され、注目を集めました。



大阪・関西万博の「地方創生SDGsフェス」では、「おおい地熱ゼミナール」(OAB制作)の動画内で地熱シンポジウムの様子が紹介されました

本学は第3期中期計画(令和4年度-8年度)に「持続可能な社会への貢献」を盛り込んだことを受けて「SDGs基本方針」を定めました。この方針に基づき、これまで教職員を対象に3回の研修会を実施したほか、全学学生とともに多方面で多様なSDGs活動を続けてきました。SDGs達成期限の2030年まであと4年。その後の動向も見据えながら、全学を挙げてポジティブな取り組みを展開する必要があります。

基本方針は「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動する)」です。これを

「Think Globally, Act Locally」を軸に、発祥の地「活用事業」を開催し、地域活性化にどう活かせるかについて議論しました。この日の模様は大阪・関西万博の会場で開催された「地方創生SDGsフェス」のブースでも紹介され、注目を集めました。

「Beyond SDGs」は、これからの時代をつくっていく別大生

- 大学に取組んでほしいSDGs事業
- エコバッグ利用
 - フードロス削減
 - 節電・節水
 - ゴミ分別
 - リサイクル意識の高揚
 - 公共交通機関利用
 - 海浜清掃活動
 - ジェンダー平等への理解
 - 環境に優しいものを使う
 - ほか
- 自分て取り組みたいSDGs活動は
- 清掃活動ボランティア
 - 環境問題、ジェンダー問題、貧困問題への取り組み
 - 子どもたちへSDGs教育をするための絵本や教材の考案
 - 植樹・植林活動
 - 廃棄物リサイクル
 - ジェンダー意識の高揚
 - エコバッグ利用
 - フードロス削減
 - 町の清掃活動
 - 海浜清掃活動
 - エコバッグ配布
 - エコバッグ配布
 - 環境問題、ジェンダー問題、貧困問題への取り組み
 - 生ゴミのコンポスト
 - 紙を可能な限り減らしてデジタル化促進
 - 多目的トイレ設置
 - キャンパス緑化
 - ほか
- どんな取り組みをしていますか

No 04

温泉の新たな
価値創出をめざす実践研究

人間関係学

温泉×強炭酸水でリラックス共同研究成果を発表

大学(別府大学)・企業(アサヒ飲料株式会社)・自治体(別府市)が連携する産官学連携事業「スッキリ生活プロジェクト第2弾」の一環として、本学人間関係学科 矢島潤平教授とアサヒ飲料株式会社が「温泉入浴と強炭酸水飲用によるリラクゼーション効果」に関する共同研究を実施しました。学生を対象に28日間検証した結果、睡眠の質向上、メンタルヘルスの改善、ネガティブ気分の低下、活気の増加が確認されました。本成果は令和7年11月16日に開催された「ONSENアカデミア2025」で発表されました。本学は今後も、産官学連携を通じて地域資源である温泉の新たな価値創出や健康づくりへの貢献を目指し、研究・発信を続けてまいります。

温泉×強炭酸水で気持ちのよい変化が見られました!



地域と出会い、自らの進路を
考える体験型プログラム

No 03

国際経営学

地域と将来を結ぶ国内企業研修

令和7年10月11日～13日、長崎県島原半島をフィールドとした宿泊型研修を実施しました。本研修は、防災・産業・観光を横断的に学び、地域社会と自らの将来を結び付けて考えることを目的とした体験型プログラムです。学生は雲仙岳災害記念館や被災地域を訪れ、火山災害の歴史と復興の歩みを学ぶとともに、農業法人や観光事業者の取り組みに触れ、地域産業の現状と課題を考察しました。さらに、レタスの除草作業やかぼちゃのわき芽切りなどの就農体験を通して地域住民と交流も行いました。現地で得た気づきや疑問を共有しながら、防災・産業・観光を多角的に捉え、自身の生活や将来の進路、地域との関わり方へと学びを発展させました。

ガイドしていただきながら島原城も見学しました!



No 06

観光・健康・地域再生を結ぶ
別府型モデルの可能性

発酵食品学

棚田ツーリズムの未来形

令和7年11月1日(土)別府市で開催された「棚田サミット」第1分科会では、「棚田ツーリズムの未来形」をテーマに、観光・健康・地域再生をどのように結び付けるかが議論されました。別府市は市街地と山間部が地理的に分断されてきましたが、それによって伝統的な農村景観や水利文化を守ってきた面もあります。分科会では温泉による「静かな癒やし」に棚田での農業体験や里山歩きといった「動的な癒やし」を組み合わせる意義や棚田産農産物を「別府野菜」として発信し、食を通じた観光につなげる構想、農業法人化による担い手確保の必要性も提起されました。棚田を守るための観光ではなく、棚田のための観光へと発想を転換する別府型モデルの可能性が共有されました。

齊藤圭講師(発酵食品学科)と小野貴史講師(国際経営学科)も登壇



『城原八幡社周辺の民俗調査
報告書』の完成報告・引渡式

No 05

史学・文化財学

地域の記憶を未来へつなぐ報告書完成

令和8年2月4日、民俗学研究室の学生5名と福西大輔准教授が竹田市役所を訪問し、『城原八幡社周辺の民俗調査報告書』完成報告・引渡式を行いました。本報告書は、竹田市との相互協力協定の一環として、別府大学民俗学研究室が2013年から2017年にかけて城原地域および宮城地域をフィールドに実施した民俗調査の成果を、現学生が中心となって報告書として取りまとめたものです。

当日は、土居昌弘竹田市長、衛藤勝志氏(大学地域連携協議会会長)へ報告書を引き渡し、成果報告を行いました。調査に協力いただいた地域の方々の「記憶」が「記録」として後世へ受け継がれることとなりました。今後も地域と協働した学術研究と人材育成の推進を進めていきます。

地域の「記憶」を「記録」として未来へ



No 01

食物栄養学科

「うまみだけレシピコンテスト」で
「審査員特別賞」と「オーディエンス賞」を受賞!!

オリジナルレシピで大分の食の魅力を発信!

大分県などが主催する「うまみだけレシピコンテスト」が開催され、本学の学生4名が考案した2つのオリジナルメニュー「とり天 in しいたけ」と「シャキッとブルっと しいたけゼリー」が入賞しました。令和7年9月28日(日)に開催された「OAB感謝祭」の特設会場にて、来場者および審査員による試食審査に臨み、本学の「とり天 in しいたけ」は審査員特別賞。「シャキッとブルっと しいたけゼリー」はオーディエンス賞を受賞する快挙を成し遂げました。地域食材への理解を深めるとともに、創意工夫に富んだメニューを通して大分の「食」の魅力を発信する貴重な経験となりました。

学生たちは、「このような賞をいただけてとても嬉しかったです。今回の受賞を励みに、これからも料理づくりに挑戦していきたいと思います」と、受賞の喜びを語っていました。本学では今後も、地元産食材を活用したレシピ開発や食育活動などを通して、地域の食文化を未来へつなぐ取り組みに積極的に取り組んでまいります。



杉田 千紘さん、木田 菜々美さん、後藤 菜々子さん、川野 真歩さん / 食物栄養学科3年生

国際言語・文化学科

学生の感性が光る
トキハ×IBIZA(イビサ)周年記念コラボバッグ

学生のアイデアが企業の技術で形に

本学国際言語・文化学科の学生5名が、株式会社トキハ創立90周年および革製品メーカー「IBIZA(イビサ)」創業60周年を記念した特別企画として、本学・トキハ・IBIZAの三者によるコラボレーションバッグを制作しました。

本企画は、令和6年10月にトキハより依頼を受けて始動しました。学生たちは、IBIZAの企業理念や商品コンセプトについて説明を受けた後、国際言語・文化学科 芸術表現コースの学生5名が、若い感性を活かしたデザイン制作に取り組みました。デザイン指導は、同学科の

根之木英二特任教授が担当しました。

制作過程では、学生一人につき3点ずつデザイン案を提出。IBIZAがその中から各学生1点ずつ選出し、デザイングループによるブラッシュアップを経て、埼玉県の工房にて制作が行われました。その結果、5点のオリジナルバッグが完成しました。

デザインには、周年記念にちなみ「90周年」と「60周年」の数字である「9」と「6」をモチーフにしたチャームを取り入れ、シリーズとしての統一感を持たせています。

完成したバッグは、トキハ大分店のIBIZAコーナーにて、令和7年10月24日(金)～11月30日(日)の間、各デザイン5点限定で販売されました。



実際の牛革も見せてもらいました



完成したバッグを手記念撮影



短期大学部 初等教育科 教授
谷川 友美
Tomomi Tanigawa

研究室訪問 学びのトビラ Vol.24

別府大学の学びの最先端をレポートします。

プロフィール

1974年高松市生まれ。大分に移住して約20年、この地が人生で最も長く過ごす場所となりました。現在は、未来の専門職が「心と命」を守り抜くための職業倫理教育を研究。特にアナフィラキシー対応等の緊急対応現場で、確実な行動を導く研修プログラムの開発に力を注いでいます。学生時代に恩師に教わられた経験を原動力に、一人ひとりの成長に寄り添う、温かい教育実践を心がけています。



高大連携授業のための教材たち。初等教育科の魅力伝えるため、おもちゃの制作にも取り組んでいます。

倫理と技術で命を守る。現場を支えるプロを育む。 ～学生に寄り添い、その成長を願って～

研究テーマについて
 未来の地域社会を担う専門職(保育者や教員等)が、人々の「心」と「命」を守り抜くための「正しい行動のヒント」を探求しています。難しく聞こえるかもしれませんが、実際には皆さんの日常の「安心」や「安全」に直結する、現場のための「生きた研究」と考えています。教室での学びを現場の実践につなげる。架け橋となり、「自分ならどう動くか?」を具体的にイメージしながら深めていくことを大切にしています。

現場で役立つ「倫理的センス」を磨く
 専門職として知識や技術を学ぶのは大前提です。そのうえで真のプロフェッショナルに求められるのは、「何が正しいか」を思考し、見抜く心の力、つまり「倫理的判断力」です。私は、教科書上の理論だけでなく、現場のプロが日々の実践の中で培ってきた「良い実践」の背後にある「生きた信念」を掘り起こす探求が重要だと考えています。将来、予期せぬ困難や葛藤に直面したときも、自信を持って決断を下せる「心の羅針盤」を、この学びを通して共に育んでいきたいのです。

命を守る「確実な一歩」アレルギーマシ対応

No.08 仲間と考え、判断し、支え合う看護教育

看護学科

1年間の学びの集大成「看護技術チェック」

看護学部1年生が、1年間の学びの集大成として「看護技術チェック」に臨みました。本授業では教員の模倣に留まらず、対象者にとって「何が最良か」を仲間と協同し考え判断する学習を重視しています。学生は根拠と原則に基づいた方法を、失敗を恐れず何度も試行錯誤し、自分たちなりの「最適解」を導き出しました。

当日は市民団体の模擬患者さんに参加していただき、友人同士とは異なる緊張感の中、対話を通じた実践的な看護を展開しました。単なる行為ではなく、対象者を深く想う気持ちが「技」として表現されたことは大きな成長です。ここで育んだ確かな技術と寄り添う心を携え、7月からの臨地実習で患者さんの入院生活を支える力となることを期待しています。



模擬患者さんに協力いただき、看護技術を実践的に学びました

No.07 大分県立南石垣支援学校との「第1回学校間交流」

短期大学部 初等教育科

ハンドベルの音色で深まる心の交流

令和7年12月19日、初等教育科研究会と大分県立南石垣支援学校との「第1回学校間交流」を実施しました。当日は、小学校教員や保育士を目指す本学2年生で構成される「ハンドベル研究会」と「おはなし研究会」、支援学校の生徒のみなさんが参加しました。はじめにスライドを用いて両校の紹介を行い、それぞれの教育目標や特色への理解を深めました。続いて自己紹介ゲームで打ち解けた後、学生によるハンドベル演奏を披露し、支援学校高等部3年生も演奏を体験していただきました。学生が1音1音のタイミングを丁寧に伝えながら共に奏でた音色が会場を包み、クリスマスを前に笑顔あふれ、心温まる交流の時間となりました。



笑顔あふれる演奏体験となりました

短期大学部 食物栄養科

No.09

巻芯サンド完売! 学生出店が大盛況

新感覚アイデア商品に来場者が注目

食物栄養科の1・2年生12名が、2025年10月18日・19日(土・日)の2日間、別府公園で開催された「令和7年度大分県農林水産祭 おおいたみのりフェスタ」に出店しました。

株式会社吉田喜九州と連携し、巻き寿司の具材をスティック状に成型した「巻芯」を使った「巻芯サンド」を販売しました。巻芯を揚げてパンに挟んだ商品は、食べやすく新しいアイデアとして来場

者の注目を集め、両日も早い時間に完売しました。商品の準備から調理、販売までを学生自身がやり、実際の現場で学ぶ貴重な機会となりました。学生からは「来場者の方の反応を直接感じる事ができ、やりがいを実感した」「協力して一つの商品を作り上げる大切さを学んだ」といった感想が聞かれました。

今回の出店を通して、食を通じた地域とのつながりや、フードロス削減の重要性、さらに栄養を学ぶ専門職としての役割について理解を深めることができました。



販売された「巻芯サンド」



多くの方に買い求めいただきました!

学生時代の経験と皆さんへのメッセージ
 私が大学教員を志した原点は、皆さんと同じく、多感で揺れ動いていた学生時代の経験にあります。アイデンティティが揺らぎやすい「青春前期」、私自身も先が見えず不安を抱えていました。そのとき出会った恩師は、温かく見守り勇気づけてくれる存在でした。この出会いが大きな転機となり、心に灯った小さな光が、現在の教育者としての原動力になっています。だからこそキャンパスは、皆さんの自由で瑞々しい発想に触れられる、刺激的で楽しい場所だと感じています。皆さんのことを「完全に理解する」のは、簡単ではないかもしれませんが、それでも私は、少しでも皆さんの「今ここ」の思いに近づき、「理解したい」と願いつける存在でありたい。失敗や戸惑いも含めた挑戦の一步を尊重し、

生命に関わるアナフィラキシーへの迅速な初期対応は、学校や地域社会の重要課題です。ここで問われるのは「極限の現場で、いかに迷わず、速やかに対応できるか」という点です。初期対応のわずかな迷いが、未来を大きく左右しかねません。ミスを防ぎ確実な対応を導く思考パターンを分析し、誰もが自信を持って命を守る行動が取れるよう、効果的な研修プログラムの開発に取り組んでいます。



■約40年のブランクを経て再開したピアノ。調和と傾聴の力を磨く、「再開の探求」。楽譜を読むこと、左右で異なる動きをする作業を通じて、認知機能の活性化と、集中力のリセットに役立っています ■ハム作り。工程自体は簡単ながら、完成までに数時間の「待つ時間」を許容する訓練です。研究テーマの熟成を待つ忍耐力に通じる、静かな楽しみです ■「羅針盤の再調整」。地域の低山を中心に定期的な山歩き。自然の中の運動は健康維持だけでなく精神的回復に有効だと感じています

その成長を心から応援する、温かい伴走者でありたいと願っています。教室や研究室で皆さんと真剣に語り合い、ときに笑い合いながら、専門職としてのあり方を一緒に考えていける日を楽しみにしています。

Closeup! 別大生

クローズアップ

中学校への就職 おめでとうございます 目指す先生像とは？

中学3年生のとき、担任の先生が進路や友人関係について親身になって相談に乗ってくださいました。その経験から、生徒に寄り添える教師になりたいと考えようになりました。明るく前向きな性格を活かし、生徒と信頼関係を築きながら、身近な存在として一人ひとりと近い距離で向き合っていきたいです。

進学に 迷っている人に ひとことお願いします！

仲良し4人組で過ごした、学びと遊びにあふれる日々は大切な思い出です。教職課程を履修する仲間や先生方とも、家族のような温かい関係を築くことができました。料理が好きで、作ることに興味がある人は、本学で可能性を広げることができます。迷っているなら、ぜひ挑戦してみてください。ここには、支えてくれる先生や仲間がいます。



仲良しグループで別府観光を満喫



みんなでワイワイ楽しい調理実習

短期大学部 食物栄養科 2年生 藤内輝さん

とうない ひかる
(大分県立大分商業高等学校出身)

教員の資格取得には 苦労が多かったと 聞きました

教育実習と教員試験の勉強を同時に進め、大学の試験とも重なる忙しい日々でした。途中で手首を骨折するというハプニングもありましたが、「やると決めたからにはやり切ろう」と前向きに取り組めました。先生や仲間を支えられながら乗り越えた経験は、今では大切な思い出です。

短大での 授業や取り組みは どんな感じでしたか？

調理実習では、粉をこねるところからパンやうどんを作るなど、他では経験できない学びが印象に残っています。ゼミでは別府市とコブおおいさんと連携し、「健康弁当」の開発に取り組み、商品化して販売しました。レズビ作りも、仲間とアイデアを出し合いながら楽しく取り組みました。

文学部 人間関係学科 4年生 佐藤亜衣さん

さとう あい
(大分県立西高等学校出身)

本学入学の志望理由や 学んだことを教えてください

なぎなたの推薦で入学しました。志望理由は、技術を磨き体力をつけるため。また、警察官になるため、心理の勉強をしようと思ったからです。実習で小学校や福祉施設に訪問し、利用者さんや子どもたちから話を聞き、警察官としてどう連携していくか考えるきっかけになりました。法律改善の必要性なども見え、視点に幅ができたと思います。

目指しているのは どんな警察官ですか？

目標のひとつは、白バイ隊員になること。マラソン大会で先導したいですね。小学生のときに見た憧れの婦警さんのように、交通指導・交通安全教室なども行いたい。ゆくゆくは公認心理師の資格を取得して、子どもたちの心理的なケアもできたらと考えています。「警察は怖い」イメージを和らげ、子どもからお年寄りまですぐに相談できる空気を作りたいです。

ケガから復帰しインカレ全国3位 おめでとうございます

小学5年生でなぎなたを始め、高校3年生で全国大会チーム優勝、ケガを経て、インカレはみんなのお陰で3位入賞できました。現在は週に5日の練習、高校やジュニアクラブチームで指導もしています。なぎなたは、2m以上のものを振り回す迫力ある競技です。教える立場になり、なぎなたの魅力を広めていきたい気持ちが強まりました。

本学に入学してから 変化したことや 工夫していることは？

人見知りでしたが、授業ではグループワークも多く、自然と人前で話すことに抵抗がなくなりました。学校ではみんなりアクションがよく、和気あいあいとした雰囲気。部活動でも人に関わる機会が多く、下級生の前で話す機会も増えたことも、克服できた理由のひとつです。参考書を繰り返し書いて勉強し、行き詰まったら体を動かし、バランスを取っています。



大学の部活動。なぎなたの試合の様子



仲間や友人とゆっくり。カフェでの楽しい時間

持ち前の元気と負けん気で
試練を乗り越え教員の道へ

憧れの警察官を目指し
なぎなたと勉強に邁進した日々



【アーススイーツ】 営業時間 10:00～20:00



「ミニ温泉マークチュロス」400円

米粉を使ったグルテンフリーのチュロスはサクッとモチモチの食感。温泉マークの他にも肉球や「別府」の文字をかたどったチュロスもあり写真映え抜群。ここでしか食べれない「ブラックモンブランソフトクリーム」もおすすめです。

Earth Sweets -Presented by Takeshita Seika-

ふらっと立ち寄れる、おいしいが集まるショッピングエリア

【ジェラテリア エム】 営業時間 10:00～20:00



「シングル」550円、「ダブル」800円 「コーン」+50円

イタリア発祥のジェラートは、アイスクリームに比べて乳脂肪分が少なく、空気の含有量も控えめ。そのため、素材の風味がぎゅっと詰まった、濃厚でなめらかな口当たりが特徴です。ひと口食べれば、果実や素材の甘みと香りが一気に広がります。お風呂上がりのクールダウンにも、ぴったりの一品です。



Gelateria M

【ポルケッタ】 営業時間 11:00～20:00



「ポルケッタサンドウィッチ クラシック」 単品800円

お腹が空いたら、イタリア・ヴェネツィアの郷土料理「ポルケッタ」をサンドしたイタリアンサンドはいかがですか。香ばしく焼き上げた豚肉に、ハーブとスパイスの豊かな香りが重なり、食欲を一気にかき立てます。ジューシーな旨みを楽しみながら、ぜひ豪快にかぶりついてみてください。

PORCHETTA

今回のV・Link特集は いかがでしたか？

リニューアルしたことは知っている、「まだ行ったことがない」という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。普段のお散歩の途中にふらっと立ち寄るのもよし、日々の疲れを癒やりに砂湯を利用するのもおすすめです。ぜひ一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。思い思いの過ごし方で、上人ヶ浜の魅力を楽しんでみてください。学生広報Vinculumでは、別府大学の魅力を学生目線で発信中です。最新情報は、二次元コードを読み取ってInstagramからぜひご覧ください。

取材：学生広報Vinculum 國吉 真琴、太田 嘉昭、河野 真吾、吉田 翔貴、坂口 永太、重黒木 拓磨



砂湯のあとはココ！ 海が見える絶景レストラン



開放感のある店内。テラス席もあり



大分県産彩りサラダビュッフェ。スーバーもある

別府湾を一望しながら、大分風ハイアングリルを楽しめるレストラン「Grill Takka (グリルタッカ)」。明るく開放感のある店内は、友人同士はもちろん、ファミリーや観光客にも人気の空間です。今回はランチメニューをいただきました。ハンバーグやパスタといった定番メニューに加え、大分県産の食材を使用した料理もそろう、どれを選ぶか迷ってしまうほどの充実ぶり。また、サラダ・スーバーやドリンクバーを追加することもでき、味ボリュームともに大満足の内容でした。

海を眺めながら楽しむ、大分風ハイアングリル

学生レポート



砂湯で体を温め、温泉でリフレッシュしたあとは、海を眺めながらのんびり食事。上人ヶ浜を訪れたなら、別府らしい癒やしの時間を、景色とともに味わってみてはいかがでしょうか。

RESTAURANT Grill Takka

TEL.0977-75-6361

営業時間：モーニング 7:00～10:00 (LO9:30)、ランチ 11:00～15:00 (LO14:30)、ディナー 16:30～22:00 (料理LO21:00、ドリンクLO21:30) 定休日：SHONIN PARKの休業日に準ずる



@BEPPU_GAKUSEI_KOHO_

Vinculum VLink (ウイंकリンク)

ちょっと寄り道、

SHONIN PARK

企画・取材 学生広報「Vinculum」



別府市内で唯一、海浜砂湯を体験できる上人ヶ浜公園が、2025年7月、「SHONIN PARK」としてリニューアルオープンしました。

これまで親しまれてきた海浜砂湯の“歴史と文化”を大切に受け継ぎながら、より魅力あふれる空間へと生まれ変わったSHONIN PARK。

その新たな魅力を探るべく、学生広報Vinculumのメンバーが現地を訪れ、実際に体験取材を行いました。温泉地・別府ならではの開放感と癒やしに包まれた、注目のリニューアルスポットをレポートします。



別府海浜砂湯 「Sand SPA」

TEL.0977-75-6360

営業時間：4月～5月末 8:00～20:00 (最終受付19:00) 6月～10月末 8:00～22:00 (最終受付21:00) 11月～3月末 8:00～18:00 (最終受付17:30) 料金：大人2500円(税込) 小人(6歳～12歳) 1800円(税込) 定休日：不定休(月2回)

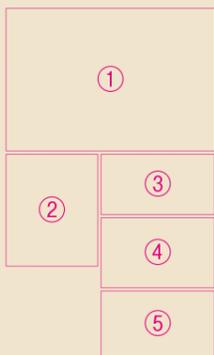
学生レポート

砂に埋もれてリフレッシュ！ 心も体も温まる「砂湯」体験

別府海岸の砂湯の始まりは、平安時代にまで遡るといわれています。別府海浜砂湯「Sand SPA」は古くから湧き出る温泉熱を利用した天然の砂湯文化を受け継ぎながら、現代的な快適さも融合された、新しい癒やしの空間として整備されています。 私たちも砂湯専用の浴衣に着替え、温泉で温められた砂に全身を包まれました。想像以上にずっしりとした重みと温もり

に最初は驚きましたが、じんわりとした熱が体の芯まで伝わり、日頃の疲れがゆっくりとほぐれていくのを実感しました。 目の前に広がる別府湾を眺めながら、約15分の砂湯体験を満喫。その後は源泉かけ流しの大浴場へ。取材で訪れたことを忘れてしまうほど、心も体も芯からリラックスできる贅沢な時間となりました。

- ①想像以上の温かさと重みにびっくり！別府湾の景色と波音に癒やされながら、初めての砂湯体験を満喫しました
- ②リニューアル前と変わらず、「別府八湯温泉道」のスタンプも設置されています。どんなデザインかは、実際に入ってからのお楽しみ
- ③Barスペースも完備！お風呂上がりにゆったりとした空間でドリンクやジェラートなども楽しめます
- ④Sand SPAの外には無料の足湯が設置されています。散策に疲れたらぜひ立ち寄り癒やしてください
- ⑤バスタオルや専用浴衣はレンタル無料。手ぶらで砂湯を楽しめます。アメニティも充実しています



第80回

りょう えん さい 繚垣祭

カラオケ大会

力自慢大会

スペシャルゲスト
相席スタート



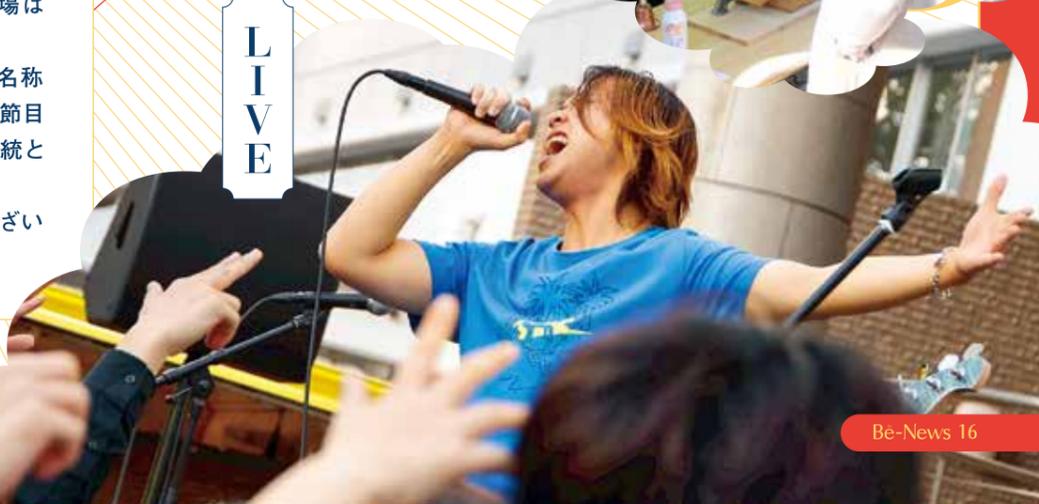
RYOGENSAI



学生広報ガラポン



LIVE



令和7年11月1日(土)・2日(日)、別府大学石垣キャンパスにて「第80回 繚垣祭」を開催し、約800人が来場しました。今年のテーマは「連綿の皓月」です。

節目となる今回の学園祭は、初等教育科「SHOのあそび研究会」による力強い書道パフォーマンスで幕を開け、音楽系サークルのライブ、沖縄エイサー団の演舞、仮装大会に加え、楊志館高等学校ダンス部「HAPPINESS」や変面ショーなど、多彩な企画が行われました。学生による模擬店

やキッチンカーも出店し、昼時には長蛇の列ができるほど盛況となりました。2日目には、舞台やテレビで活躍中の人気お笑いコンビ「相席スタート」が登場し、会場は大いに盛り上がりました。

昨年度、「石垣祭」から「繚垣祭」へ名称を改めた本学の学園祭は、第80回の節目を迎え、連綿と受け継がれてきた伝統と想いが未来へ紡がれました。

皆さま、ご来場いただきありがとうございました。

仮装大会

かわいいだけじゃ
だめですか？



小 学校での避難訓練を受けた時、消防署の方からはご車に乗せてもらったことが、消防士に興味を持つきっかけでした。高校も大学も野球部で鍛えていたので、体を動かして人の役にたつ職業に就きたいと考え、消防士の道を選びました。実は弟もサッカー部で体を鍛えていたのですが、今は熊本で、私と同じく消防士になりました。

大学時代の思い出は、野球部と焼肉屋でのバイトですね。友達もたくさんできました。ゼミは国際経営学でしたが、別府大学は公務員試験に力を入れているのもよかったです。大学に通いながら、夜間は公務員専門の予備校にも通いました。主要5教科を徹底的に学んだのですが、別大生の仲

間もいて心強かったですね。

大分市消防局に入局後の半年間は大分県消防学校で学びました。消防法などの基礎教育や、消防ポンプを使っの放水などの知識や技術を徹底的に教わりました。

同期は17名いて、最初に配属されたのは東消防署です。印象に残っている現場は一般家庭の全焼火災で、残念ながらお亡くなりになられた方もいらっしゃいました。全力で消火活動に専念したのですが、無力感を感じると共に、あらためて日頃の訓練に力を入れようと誓いました。現在は明野出張所に異動したのですが、昨年秋の佐賀関大火

は、もっとも悲惨な現場でした。なかなか鎮火に至らず、何度も現地に向かい、延焼防止にも目を配りました。

火災だけでなく地震や台風など様々な現場を目のあたりにする職業ですが、市民の皆さんが安心して暮らせるよう、使命感と誇りを持ってのぞんでいます。



アウトドア好きなので、休日はキャンプなどに出かけて心と体を休めています

J O B

大分市消防局 中央消防署
明野出張所

N A M E

かしわら よしき
梶原 嘉希さん

国際経営学部 国際経営学科
2021年3月卒業
(大分高等学校出身)

命の現場で「安心」を守る
責任の重さに誇りを感じます

先輩!!

卒業生インタビュー - こんにちは先輩!!

J O B

中津市立豊田小学校
教諭

N A M E

しゅとう かずあき
首藤 千明さん

短期大学部 初等教育科
2019年3月卒業
(大分県立佐伯鶴城高等学校出身)

ハンドベル研究会や短期留学は
学生時代の貴重な体験です

教

師を目指したのは、高校時代の野球部の恩師から「人の話をよく聞き、思いやりもあるから、教師に向いているぞ」と言われたことです。思わぬアドバイスでしたが、そこから真剣に考えるようになり、2年間で教員2種免許を取得できると知り、短期学部への進学を決めました。結果的に私は専攻科でも1年学んだのですが、学生時代は有意義な時間を過ごせました。

なかでもハンドベル研究会の活動は、教員としての素養を育てるのに役立ちました。それまで子どもたちとコミュニケーションを取る機会がなかったので、演奏会を通じてふれあう経験は新鮮でした。同じくニュージーランド短期留学でも、コミュニケーション力を

磨くことができました。卒業後は大分市立長浜小学校に着任しましたが、児童はもちろん親御さんと親身になって会話を交わされるのも、この時の経験が今の私に生かされています。

現在は大分市の自宅から、中津市立豊田小学校まで通っています。地域性の違いに最初は戸惑いましたが、先輩教師が仰っていた「子ども達が授業を作っていく」「一人ひとりを



ニュージーランド短期留学では、現地で幼児教育を体験。のびのびと楽しい教育方針が参考になりました

しっかり見て話を聞く」という言葉を胸に、子どもたちと向き合っています。

実は私の妻も、短期大学部で学んだ教師です。昨年、男の子が産まれたので、今は育休を取っています。私自身も理科の専科教員となって少し負担を減らし、イクメンとして家で過ごす時間を増やしました。自ら育児に関わるようになり、あらためて親御さんの気持ちがわかるようになってきました。



豊田小学校では専科教員として勤務中。理科の面白さを児童たちにわかりやすく伝えるように努めています

地域連携



もしもに備える、みんなで学ぶ 別府市×別府大学「防災セミナー」全2回を開催

本学では、別府市との連携事業として、防災意識の向上と地域との協力体制の強化を目的とした「もしもに備える、みんなで学ぶ」防災セミナー」を全2回にわたり開催しました。本事業は、南海トラフ地震などの大規模災害を見据え、市と大学が協力して防災教育を推進する初の取り組みです。

第1回(令和7年11月29日)

会場 **メディア教育・研究センター** 参加者 **地域住民21名**

第1部では、別府市防災局防災危機管理課の三重野晋介主査・長田慎之介主任が登壇し、「災害への備え」をテーマに講演が行われました。後半には、別府市街地の模型にプロジェクションマッピングを投影し、鶴見岳噴火時の溶岩流の動きを視覚的に理解する体験型プログラムを実施。参加者からは「映像で見ることで災害のリアルさが伝わった」と好評を得ました。

第2部では、赤星琴美教授(看護学部)が「避難所における衛生管理と感染症対策」をテーマに講演。アルコール量や口腔ケアの方法を実演しながら解説し、「正しい手指消毒に必要な量を初めて知った」など、参加者の学びにつながる声が多く寄せられました。



第2回(令和8年1月20日)

会場 **35号館 調理実習室** 参加者 **地域住民12名**

第2回は「災害時の食について知る・作る」をテーマに、中村弘幸准教授(食物栄養学科)が講師を務めました。講演では、防災の基本や非常時の衛生管理のポイントを学び、実習では備蓄食品の試食や、ポリ袋を活用して調理する「バッククッキング」に挑戦。キーマカレー、ナポリタン、野菜スープの3品を作り、限られた資源での調理方法を実践的に習得しました。参加者からは「実際に作ってみることで、家庭での備えを見直すきっかけになった」といった声が聞かれました。



地域とともに学び、防災力を高める取り組みへ

2日間を通じて、参加者からは「災害への意識が高まった」「地域の方と一緒に学べる貴重な機会だった」との感想が寄せられました。本学は、今後も別府市と連携し、災害に強い地域づくりへの貢献を目指してまいります。

地域の魅力を再発見! 「地域創生プロジェクト3」 成果発表会を実施

国際経営学科「地域創生プロジェクト3」では、令和8年1月13日・20日に大分県玖珠町を題材とした学生提案発表会を実施し、80名が参加しました。学生は11月8日に現地でフィールドワークを行い、事前学習で整理した課題を直接検証しながら地域関係者との対話を通して地域課題を深く理解。その学びを基に、6つのテーマで14班が調査・分析を進め、地域創生に向けた企画を発表しました。当日は玖珠町役場や地元企業の方々から専門的な講評をいただき、学生同士の相互評価も行われ、多角的に学びを深める機会となりました。



Be-News 高大連携の取り組み

1 高大連携・接続とは

18歳人口が減少する一方で大学進学率は上昇しており、高校と大学は協力して高校生の進路選択を支援しています(高大連携)。また文部科学省は中等教育と高等教育のつながりを重視し大学入試改革を進めています(高大接続)。

2 本学の高大連携・接続への取り組み

本学はこのような社会動向を受け、高校生の大学体験、進路ガイダンス、探究学習支援などを県内高校と協力して進めてきました。2025年度は大学体験・探究学習の受け入れ28件、進路ガイダンス参加82件、また高校への出向説明会を26校で実施しました。さらに6月6日の「別府大学説明会」には53校96名の教員が参加するなど、高校との連携を強化しています。

3 公立高校4校との高大連携協定締結

2024年度、本学は佐伯豊南高校、由布高校、三重総合高校、安心院高校の4校と高大連携協定を締結しました。従来から取り組みは行っていましたが、協定により教員と生徒が学習支援や共同研究で交流する機会が増え、生徒の研究意欲や進学への関心が高まりました。本年度も具体的な連携活動を展開しています。以下、協定校以外の取り組みもご紹介します。

大分県立大分上野丘高等学校の皆さんが グローバルスタディ課題研究を実施

令和7年10月28日、大分県立上野丘高校1年生40名が本学石垣・亀川キャンパスで「グローバルスタディ課題研究」を行いました。初めに全体会が行われ、課題研究の進め方について説明を受けたのち、研究テーマ別に10班に分かれ、指導教員の各研究室を訪問し、専門的指導・助言を受けながら国際的な視点で課題に取り組みました。生徒の皆さんは、積極的に質問し、熱心に研究を進め、今後の学びに生かす貴重な体験となりました。



大分県立大分上野丘高等学校の皆さんがグローバルスタディ課題研究を実施

大分県立別府翔青高等学校の皆さんが 本学で体験学習を実施

令和7年12月2日、大分県立別府翔青高等学校の1年生104名が本学で体験学習を行いました。学生食堂で昼食を楽しんだ後、メディアホールで全体会を開催し、本学の特色ある教育・研究について説明がありました。さらに、本学で学ぶ

別府翔青高校卒業生2名との懇談会では、大学生活や進路理由について直接話を聞き、生徒たちは将来を真剣に考える姿を見せていました。最後に施設見学を行い、学びの環境を体感しました。



大分県立別府翔青高等学校の皆さんが本学で体験学習を実施

「日本遺産サポーター大学」登録を大分県知事に報告
 令和7年6月26日、別府大学は文化庁の「日本遺産サポーター大学」に正式登録されました。全国10校目、西日本の私立大学としては初の認定です。8月7日には大分県知事へ報告を行い、今後の連携や展望を説明しました。今後も本学は地域との協働を深め、日本遺産の価値向上と文化の発展に寄与してまいります。



栄養士教育の発展に尽力——海陸留美教授が(二社)全国栄養士養成施設協会会長長顕彰を受賞
 別府大学短期大学部の海陸留美教授が、令和7年度「栄養士・管理栄養士の養成施設に勤務する教員のための会長顕彰」を受賞しました。本顕彰は、教育・研究・社会活動において顕著な功績を挙げ、栄養士養成教育の発展に寄与した教員を讃えるものです。海陸教授の長年の取り組みと貢献が高く評価され、このたびの受賞となりました。



古川瑞葵さんが「第56回九州芸術祭文学賞」に3年連続の入選!
 令和7年度「第56回九州芸術祭文学賞」で、国際言語・文化学科3年の古川瑞葵さん(ペンネーム・逸月龍)の作品『爪のあと』が大分県地区優秀作に選ばれました。本作は九州・沖縄11地区の地区優秀作の一つとして選出され、古川さんは3年連続の入選という快挙を達成しました。



「書く／描く／画く——粘土板からiPadまで」を開催しました
 令和7年10月25日、メディア教育・研究センターにて講演会・シンポジウム「書く／描く／画く——粘土板からiPadまで」を開催しました。本イベントでは、「かく」行為を古代の粘土板から現代のデジタルツールまで多角的に検討しました。講演会に続き4名の先生方が専門分野から「かく」を考察し、活発な議論が行われました。

Be-NewsはHPでもご覧いただけます。
 Be-Newsへのご意見ご要望がございましたら、下記までご連絡をお願いいたします。
 別府大学・別府大学短期大学部 広報室
 〒874-8501 大分県別府市北石垣82
 TEL : 0977-66-6262
 E-mail : koho@nm.beppu-u.ac.jp

「第56回九州芸術祭文学賞」に3年連続の入選!
 令和7年度「第56回九州芸術祭文学賞」で、国際言語・文化学科3年の古川瑞葵さん(ペンネーム・逸月龍)の作品『爪のあと』が大分県地区優秀作に選ばれました。本作は九州・沖縄11地区の地区優秀作の一つとして選出され、古川さんは3年連続の入選という快挙を達成しました。



附属博物館企画展「別府と温泉」
 令和7年7月24日から9月30日まで、本学附属博物館にて企画展「別府と温泉」を別府市誌刊行記念として開催しました。本展は学芸課程の「博物館実習」で学生が企画・制作したもので、42枚のパネルを通して別府と温泉の歴史を紹介しました。会期後は、より多くの市民の皆様にご覧いただくため、別府市美術館でも開催されました。



編集後記

Be-News 132号をご覧いただきありがとうございます。SDGsの達成年限まであと5年を切りました。今回の特集は「SDGsアップロード宣言」です。新たなフェーズに突入したSDGsへの取り組みを内外に再発信する意味を込めて、このタイトルとしました。私はマイバッグやマイボトルを常に持ち歩くようにし、できることから一歩ずつ取り組んでいます。本誌をご覧いただき、何気ない自分の毎日の行動が、持続可能な社会の実現につながる——そう感じただけだと嬉しいのです。

また、学生広報ウィンドウのメンバーが、2025年7月に別府上人ヶ浜公園に誕生した大学近隣の観光スポット「SHONIN PARK」取材しました。別府観光でも有名な砂湯を中心に、地域の魅力を学生ならではの視点で丁寧に紹介しています。新しい観光拠点として注目される「SHONIN PARK」の姿も、ぜひお楽しみください。(元香りの王子)

マンガ

三浦 伊織
 〈月下、燭火を灯す〉
 (ストーリーマンガ&イラスト)



衛藤 愛
 〈不揃いのデュエット〉
 (ストーリーマンガ&イラスト)



絵画

平山 愛華
 〈翠槽〉
 (S100号 油彩・ミクストメディア)



近藤 隆之祐
 〈NEST〉
 (S100号 油彩)



卒展案内デザイン：宋毅

朱牟田 大陽
 〈カノープスの瞳〉
 (Music Video)



肖 雨波
 〈君は、鳥カゴの中にいる。〉
 (line Animation&Metamorphose)



国際言語・文化学科 芸術表現コース

デザイン

小田 実鈴
 〈暮らしの中の法〉



宋 毅
 〈色で旅する雲南～color of Yunnan〉



令和8年2月10日(火)～15日(日)、大分県立美術館にて国際言語・文化学科の芸術表現コースの4年生による卒業制作展が開催されました。絵画、デザイン、マンガ、映像・アニメーションの各領域で学んだ24名の学生たちが学びの集大成として制作して作品約30点を発表しました。

映像・アニメ